



「水性生物による水質調査」

### ▼活動の目的

町の中央を横切り、学校の脇を流れる身近な樋脇川の水質・生物調査を行うことで、観察の方法や視点、器具や薬品の使い方のスキルを身につけさせたい。また、実際に観察や生物を捕獲することで関心を高めると共に、水槽や池で飼育することも合わせてその生態を詳しく知る手がかりとしたい。そして、清掃活動を兼ねたゴミ調査を行うことにより、現状を知ると共に環境を大切にすると共に地域やそこに住む生物を慈しむ心を養いたい。さらに、これらを報告することで他の生徒や地域の方々にも同様な意識付けをしていきたい。

### ▼活動の内容

下記の事について、定期的に継続して調査を行った。

樋脇川の状態：幅、深さ、流れの速さ、川底の状態など

水質：透明度、におい、温度、PH、ORP、電導率、COD、NO<sub>2</sub>、リン酸

生物：種類、数、場所など

飼育：捕獲した生物を水槽や池で飼育、観察

ゴミ：数や量、種類など

清掃活動：で調査し記録をとったものを集め分別処理

地域との活動：地域で行われる川を中心とする行事、活動への参加、援助

報告：県の委託の水生物による水質調査、子供エコクラブへの壁新聞提出、文化祭の発表や調査結果の掲示



地域のお年寄りから昔ながらの網を使った鮎の追い込み漁を詳しく教えていただく。

## ▼活動の効果

- 自然の変化を調べるため、事前調査として、お年寄りなどに昔の川の様子、生物の捕獲の方法などをインタビューによる交流ができた。
- 川を中心とする清掃活動を兼ねた清掃活動による環境への意識が高まった。
- 調査・研究したことを文化祭や壁新聞の作成と掲示による研究の報告することにより、他の生徒の環境への意識も高まった。
- 市・県の環境関係・河川局やエコクラブなどの環境団体へ活動・調査報告ができた。
- 調査の方法や器具、薬品の使い方、飼育などのスキルが高まった。

## ▼苦勞した点・反省点

- 30名の生徒に対して指導者が少なく、十分な対応ができないこともあった。
- 普通は選択理科の授業で活動したが、準備や後始末、行き帰りの時間の関係もあり1時間の授業の中では観察・調査の時間が限られたり、十分なまとめや考察ができないことが多かった。
- ほとんど同じ場所だったので上・下流域のもっと広い範囲や近隣の他の川での調査・観察も行い、その結果を比較する活動も行ったかった。

文化祭の展示

